

初期の佛像、其起源、發生、及び年代

『佛陀の像は、誰が、どの國で、何時、始めて工夫し、造つたか』。若し此の問をかければ、何人も直ぐに、『其の昔、印度のどこかで、名も知れずに居る美術家が造つたのである』と答へる事と思ふ。之では少し漠然とはして居るが、佛像の起源をば、佛教の起源の様に、印度で求めるに於て一致して居る事を見れば、已に何物かを得る譯である。今日に存して居る遺物を研究して、事實、佛像は、異つた二箇所二度工夫されたのではなく、單一の形式が、表面上の變形はあつても、之を通じて、常に其れ自身は同様で、佛教の教法と教團と共に、全東亞に傳播して、東南はヂャヴに至り、東北は日本に及んでゐる事を知る所以であり、之等長い間の傳播中にも、佛像は教理や戒律よりも一層忠實に保存されたと思ふ。何となれば、云ふまでもなく佛教は小乗と大乘との二別があり、後者は更に幾多の宗派に分れてゐるが、美術上の見地からすれば、地方的に多少の變形はあつても、單一の佛